

## 令和7年度第3回宮城県文化芸術振興審議会 議事録

- 1 日時 令和7年12月10日（水）午前10時から正午まで
- 2 場所 宮城県行政庁舎4階 庁議室
- 3 出席者
  - 出席者：志賀野委員、村上委員、吉田委員、阿部委員、玉瀨委員、  
田瀨委員、大澤委員、渡邊委員、梶賀委員、高田委員
  - 欠席者：小塩委員、花田委員
- 4 議事
  - 第4期宮城県文化芸術振興ビジョンに係る最終案について
- 5 概要
  - (1) 開会
  - (2) 挨拶
  - (3) 審議
  - (4) 閉会

## 6 議事内容

※宮城県文化芸術振興条例第30条第1項の規定により、志賀野会長が議事進行を行った。

### 【議長：志賀野会長】

暫時、議長を務めさせていただきます。委員の皆様、よろしくお願いいたします。今回の議事は、「第4期宮城県文化芸術振興ビジョンの最終案について」になります。

冒頭の挨拶でもお話がありましたが、皆様と計画について協議するのは、本日の審議会が最後となります。本日の審議を踏まえて、修正が必要な部分があれば修正をした上で、来年1月に私から知事に答申を行うこととなっております。

今日の議事の流れですが、事務局から最終案等について説明を受けた後、委員の皆様にお一人ずつ御意見や御質問を伺う流れとします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

### 【事務局：遠藤課長】

それでは、はじめに第4期宮城県文化芸術振興ビジョンの最終案について御説明いたします。

先に、「**資料2** 第4期宮城県文化芸術振興ビジョン最終案」を御覧ください。こちらは、前回の審議会でお示した中間案に対しまして、委員の皆様からいただいた御意見や、庁内の照会を踏まえて修正を行い、調製したものになります。

なお、**資料1**及び2のいずれも朱書きをした箇所が中間案からの変更箇所になります。

中間案からの主な変更箇所について御説明させていただきます。はじめに、1ページ「第1章 第4期ビジョンの策定にあたって」のうち「1 はじめに」を御覧ください。

こちらは、前回審議会で、「第2章の「5 文化芸術を振興する意義」は、第1章の前に、前書きや序章のように位置付けた方が良いのではないか」という意見を頂いたことをふまえて、現行の24ページ第2章「5 文化芸術を振興する意義」から一部を持ってきて、今回新設しております。なお、内容としては確かに重要なことを記載しているのですが、他の章とのバランスを考慮して、御意見のあったように章として独立させることはせず、第1章の最初に「はじめに」として記載するよう整理させていただきました。

続いて、3ページを御覧ください。「(2) SDGs 達成に向けた取組の推進」の箇所ですが、前回の審議会におきまして、「『各種計画や戦略、方針の策定や改訂に当たってはSDGsの要素を最大限反映することが奨励されています。』とあるが、SDGsの推進はほぼ県の行政計画にも盛り込まれているような状況で進んでいるので、『SDGsのより一層の推進を図る』とか『SDGs実現のための取組をさらに強化するとか加速する』ということが求められている」という表現が適切ではないか」との御意見を頂いたことから、表現を修正しました。

続いて、24ページをお開きください。こちらは、先ほど御説明させていただきました、1ページ目の修正と関連しまして、こちらにもともとあった文化芸術を振興する意義の記載の一部を1ページ目に移したことから、重複しないよう記載内容を調整したものになります。

続いて、25ページを御覧ください。

前回の審議会におきまして、「中間案では『文化芸術は着実に継承され発展し、新たな価値を創造して、人々に多くの恵沢をもたらします。』とあるが、文化芸術は自然と継承されて発展するものである、という表現では高循環を創出する必要性とかみ合わなくなるので、『人々に多くの恵沢をもたらすことが求められています』のような書きぶりではどうか。」との御意見を頂いたことから、表現を修正しております。

続いて、26ページを御覧ください。「地域」の欄ですが、前回の審議会におきまして、「中間案では『地域の文化の希少性や素晴らしさが認知され』と

あるが、『希少性』というよりも『地域の独自性』や『特色』といった言葉に置き換えてはどうか。」との御意見を頂いたことから、「希少性」という単語を「独自性」に変更しております。

なお、「文化芸術関係者」の欄につきましては、ポツ3つ目を今回追加したのですが、過日実施したパブリックコメントを踏まえてのものでありますので、後ほど別途御説明いたします。

続いて、28ページを御覧ください。このページはいずれも文章の意味は変えず、表現を整理したのみなのですが、方針1～3のいずれも文末の表現を統一したほか、方針2においてはよりわかりやすい文章になるよう、他の部分の書きぶりと合わせて「文化ホール」を「文化施設」に変えたほか、「牽引していく」を「牽引役となる」に修正しました。

最後に、31ページを御覧ください。このページの(3)「文化芸術による交流活動の促進」のうち、中間案では現在の④と⑤の順番が逆に、つまり現在の④が⑤に、現在の⑤が④になっていたのですが、前回の審議会においてこれを逆にした方が「交流活動の促進」のイメージがしやすいのではないか、との御意見をいただいたことから、順番を入れ替えています。

**資料2**についての説明は以上となります。

**資料1**の「宮城県文化芸術振興ビジョン中間案概要」の1ページ目を御覧ください。こちらは先ほど御説明した**資料2**の概要の資料になりますので、さきほど御説明した**資料2**の修正箇所と連動して修正しております。修正箇所は、「第1章 第4期ビジョンの策定にあたって」に「1 はじめに」を追加した点と、それによりタイトルの数字がずれていった、というところのみです。

また、本日、**資料3**として、「『宮城県文化芸術振興ビジョン（第4期）中間案』に対するパブリックコメントの実施結果について」という資料をお渡ししておりますので、こちらを御覧ください。

資料の1枚目に、パブリックコメントの実施結果の概要を記載しておりますが、実施期間は記載のとおり令和7年10月15日（水）から令和7年11月

14日（金）まで、資料は宮城県ホームページのほか県庁・各地方振興事務所の県政情報センター等で公開し、郵便・ファクシミリ・電子メールで意見を受け付けましたところ、2個人及び1団体から計13件の御意見をいただきました。

なお、いただいた御意見と県の考え方は資料2枚目以降にお示ししたような形で令和8年1月から2月頃に公表することとしておりまして、本日お示している内容は今後公表までに修正が入る可能性があるのですが、委員の皆様にはどのような御意見をいただいていたかを共有させていただきたく、本日お配りさせていただきました。

おって、いただいた意見のうち1点、それをふまえてビジョン最終案に修正を加えた箇所がありますので、御説明させていただきます。

資料の3枚目、番号3の御意見ですが、第3章の「2 めざす姿」について、「この中で描かれている『文化芸術関係者』は、プレイヤー視点での表記になっていると感じ取れた。プレイヤーばかりを育てるのではなく、ディレクターを始めとする運営側の受け皿団体も育てていくこと、その大切さも意識した内容となって欲しいと切に願う」との御意見をいただきました。こちらについて、**資料2**の28ページを御覧いただければと思いますが、第4期ビジョンにおいては、重点的施策で方針2のうち「(3) 文化芸術活動を支える人材の育成」を設定しているように、文化芸術の振興においては、ディレクターや企画者、文化施設関係者等、アーティストと地域住民の橋渡しを担う方々が、住民が文化芸術に触れる機会の拡充や文化芸術の裾野拡大等において重要な役割を担っていると考えることから、下記の内容を**資料2**の26ページ「文化芸術関係者」の欄に、「芸術家と県民等をつなぐ中間支援人材が活発に活動し文化芸術が開かれたものになっている。」という項目を追加しました。

事務局からの説明は以上となります。

**【議長：志賀野会長】**

非常に分かりやすくなったのではないかというふうに思います。とりわけ冒

頭に、大きな、基本的な文化芸術のなぜこれをやるのかというところがはっきりと明示されたのはとても良いのかなという印象を私も受けた次第でございます。今説明でおっしゃったことは全て資料にありますので、1人ずつご意見含めてお話をいただけるようにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。初めは村上委員から、時計回りでまいりたいと思っております。

それでは、村上委員お願いいたします。

### 【村上委員】

宮城教育大学の村上です。

こちらの委員のいろんな意見とかも盛り込みながら、非常によくまとまっているのではないかと思います。かなり色々な内容が網羅されていますので、これを実際にやっていくのかとか、その部分がすごく気になるところでもあります。これだけの内容のものを今後やっていく場合に中核の場所として新県民会館が位置づけられるというのもあるかと思うのですが、その母体となるこういうビジョンを作られた消費生活文化課とか、県庁の中での部署も色々とメンバーが変わるとか人事異動があったりするので、継続性という点でちょっと懸念もあります。異動がない専門職の方を入れられるとか、そういうものがあるとより良いのではないかと思いますし、また、新県民会館というものが指定管理になりますけれども、その中でより専門的なプログラムを考えられるような、プログラムオフィサーのような方であるとか、これだけの内容のものをやっていく限りは、とてもじゃないですが少人数ではできないということで、NPOもありますので、幅広くいろいろなところに助成を含めた提案をして、多くの人が協働でできるような仕組みとか、そういうものを拡充していく必要があると思います。

さらに外部資金を獲得していくようなファンドレイザーのような方も入れていくことが必要になるのではないかと思います。

ですので、このビジョンとしては、非常によくまとまっていると思いますが、これを具現化していくにはやはり文化課であったり、あるいは新県民会館の一

室でもいいので、今後こういうものを具現化していく部署とか、そういう人たちが東北のアーツカウンシルの設立準備室みたいな形に発展していくようなものが謳われると、それに向かってやっていくというのが具体的に見えていくし、全国的にもアピールになるのではないかと考えます。

また、新県民会館に関しましては、料金設定もちょうど中間ぐらいのさほど高くもない借りやすいような形にもなっているのではないかと思いますけれども、アートとエンターテイメントとテクノロジーというのを軸にすると謳っていますので、その点ではホールとかでの鑑賞だけを対象にするのではなく、県民の人たちも実際にクリエイティブな制作ができるようなスタジオとか、あるいはその機材とかですね、ARやVR、いろんなことができるような設備とか、パブリック的な要素であるとか、子供たちがデジタルアートとかゲーム的なものでも体験できるようなコーナーとか、そういうものがあって、普段も使えるような施設で稼働率が高いようなもの、というのが必要になっていくのではないかと思います。

特にホールがメインで何かしている時にはかなりの人も出入りするかと思うのですが、ホールを使っていない時は何もしなければ閑散としているのではないかとということが想定されます。そういう意味では早めに、例えばギャラリーもありますし、パブリックアートのような作品を購入するとか、十和田の現代美術館は非常に良い作品コレクションを持っているところで、多くの人がパーマネントの作品を見に来るだけでも、かなり集客のある場所ではあるのですが、そういうホールだけではない、県民の人がくつろげる、アートに触れられるようなものですね。体験的なものとか、そういうパブリックアートとか、あるいはカフェとか、多賀城の図書館みたいな立派なものも色々民間と組むと思うのですが、そういう色々なことを含めて、今後のビジョンとしてどこかしらにあるとアピールできるのではないかと思います。

さらに地域の大学であったり研究機関であったりIT系のベンチャー企業であったりNPOであったり、そういったところとうまく連携できるような仕組みですね。そういうものもぜひ積極的にやっていかれると良いのではないかと

思います。以上です。

**【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。

たくさんの提案のようなことも含めてご意見があったかと思います。

ビジョン全体については大変立派なものが出来上がっていると。それを具現化するための、方策としてのアーツカウンシル的なものは考えているのかどうかというようなこととか、それから、アートコレクションみたいなものですね。これはちょっと予算もかかってくるので、こういうことも考えるのか考えていないのかとかですね。

それから様々な連携というようなことはどうなのかということもあったかと思えます。これは後でまとめてお答えいただく方がよろしいかと思えますので、皆さんのご意見を伺ってから、まとめて質疑という形で、あるいはお答えということがあれば出していただいて、ということにしていきたいと思えます。

それでは、田淵委員お願いいたします。

**【田淵委員】**

高等学校文化連盟の田淵です。

今回の最終案を見せていただきました。修正するような意見を私は持っていませんので、本当によくまとまっているなという感じがしました。

感想になってしまいますけれども、まず、本当に 1 ページ目から読みやすくなったなというのは、やはり「はじめに」というところで冒頭に文化芸術の振興の意義が入ってきたことによって、ものすごく落ち着いた形で読んでいけるような作りになったと思います。位置が定まったなという風な感じを持ちました。

それから、パブリックコメントも興味深く拝見しました。一部の人の意見ではありますけれども、コメントを寄せてくれているということで、非常に注目した方々からの意見だと思って見ておりました。それぞれの立場で気になるこ

とだとかが述べられていますが、基本的には今回のビジョンに対しては「めざす姿」に賛同してもらえているような意見のように見えました。むしろ期待しているようなコメントが多いかなという風な感じがします。その中で先ほども話題になりましたけども、プレイヤーというところが、やはり私も「あ、なるほどな」と思ったところで、プレイヤーばかりの視点ではなくて、支えるとか繋ぐという役割というのはやはり文化活動には重要だなということを実感していて、狭い話になってしまっていますが、私が勤めている宮城野高校では、総合的な探究の時間というところで、様々なゼミ活動を行っています。その中に「舞台芸術ゼミ」というゼミを設定しております、そこでは劇団の人に講師となってもらい、生徒たちが身体表現、演劇を行っています。そうするとプレイヤーとしての役者、演者だけではなくて、実際に照明だとか音響だとか、それから脚本だとか、そういったところの役割というのがすごく重要だということに生徒たちは気づいて、むしろそういった方に興味を持ったりというような教育的な効果と言いますか、そういった生徒たちの成長や気づきがあります。ですから、そういったところが今回の最終案にも触れられているというところはすごく良かったなというふうに思っています。

高等学校文化連盟としては生徒たちの活動、作品の展示ですとか発表ですとか、そういったことを多くの県民の方にもお知らせしたいと思っていますので、先ほどアートコレクションという話もありましたが、是非プロだけではなくて、アマチュアの高校生の作品なども随時展示していただくような形で応援していただければと思っています。以上です。

**【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。

ビジョン全体については賛成というか共感を持っているというところでありました。さらにパブリックコメントにも論評をいただきましたけれども、パブリックコメントを私も見させていただきますと、これはとても応援するような質問というよりは評価の言葉をいただいているような気がいたしまして、同じ

ような感想を持ちました。

それと人材育成に関しましては、やはり中身についてはおっしゃる通りでございまして、中間支援人材というのを今回は言葉としてはまとめたのですけれども、やはり色々な文化芸術活動を巡って様々な技術から演出から、あるいは脚本だとかそういった運営に関するようなことまで全て含んだ関係人口と言ったらよいか専門人材と言ったらよいのか、そういったものがあるわけで、それらを包括した言葉として今回は中間支援の人材、というふうになったかと思えますけれども、この言葉はちょっと不十分な感じはするのですけれども、まあ良いかなという感じを私はしてはしまして、実際にも舞台芸術のワークショップといったものを通して、おやりになっているという立場からのご意見でございました。

それでは、吉田委員は飛ばしまして、阿部委員にお願いいたします。

#### **【阿部委員】**

文化振興財団の阿部でございます。

私も田渕委員のお話と一緒に、第一章の冒頭に「はじめに」ということで、こちらに場所を移して、文化芸術の価値といったものを明文化したということは、計画書として全体を読み進める上で非常に良い位置に収まったかなというふうに思いました。特に、第4章の施策の展開との関連性からもこういう整理が非常に良かったのかなというふうに思いました。

それから、今、志賀野会長からお話のありました中間支援の人材というところですけど、今回初めて中間支援人材という名詞がでてきて、初めて聞く言葉でありましたし、ネットで検索してもこういう単語を見つけられなかったということで、逆に名詞化した意図というか、あるいはこれを浸透させていくという意図があつてなのかなどうなのかな、名詞の意味として捉えた時に、私が理解できないというところからすると、伝わりにくいのかなと思ったので、平たく文章化するとかでもよいのかなとは思ったのですけれども、もし何か意図があつてのことであれば、聞かせていただければと思いました。以上でございます。

**【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。

全体的には大変結構というところまでございまして、それから中間支援人材についてのコメントがありましたので、これは他の委員の先生方にも聞いてみていきたいと思っておりますけれども、ま、これでいいというのであればそういうことで、それから例示などということもあるかと思っておりますし、その辺のことを皆さんのお話を聞いていきたいと思っております。

それでは玉淵委員お願いいたします。

**【玉淵委員】**

まず、全体のビジョンについては、非常に分かりやすく整理されていると感じました。

一点のみ意見として申し上げますと、せっかく丁寧に作られた計画であるため、表紙デザインについて、もう少し華やかさがあっても良いのではないかと感じました。これは修正を求めるものではなく、印象に関する余談としての意見です。

次に、パブリックコメントに関して、5ページの専門人材育成に関する記述については、村上委員や田淵委員の発言とも重なる部分がありますが、指定管理者制度や人事異動のある職員については、期限付き雇用となるケースも多く、能力や努力があっても人材が定着しにくい点が大きな課題であると考えています。現場職員を中間支援の担い手として育成する視点は非常に重要である一方で、専門学校や大学など教育機関と連携したプログラムと、職員向けの育成プログラムを同一の枠組みで位置づけ、教育的観点から共に研修を行う可能性もあるのではないかと感じました。計画内で言及されているフェロシップ制度についても、制度化までは至らずとも、より力を入れて検討してよいのではないかと考えます。あわせて、キャリアパスの提示や、若手専門職が定着するための支援・研修の在り方についても重要な視点であると感じました。

また、劇場が目指す姿についてですが、計画全体を読む中で、最終的にこのような状態になっていれば良い、というイメージは伝わってくる一方で、村上委員の発言にもあったように、そこへ至るプロセスがもう少し具体的に示されると良いのではないかと感じました。

新県民会館のような拠点をイメージすると、鑑賞機能に加え、創造、研修、記録、人材育成といった役割を果たしながら、創造活動・発表・鑑賞が活発に行われている状態が想定されます。こうした取組を継続することで、結果として目指す姿に近づいていくのではないかと考えました。

「そこにしかない文化を共に創造し育む」という計画内の表現を踏まえると、研修や創造の機能を担いながら、鑑賞機能と両立させていく姿が想定されるのではないかと思います。

最後に、パブリックコメント2ページにある「観光文化」に関する回答について、「任せる部分は任せる」という表現については、そのままでよいのか検討の余地があると感じています。観光文化を担う部署や団体と、文化芸術の創造性を尊重しながら役割分担を行い、連携を深めていくという整理の方が伝わりやすいのではないかと思います。例えば、文化芸術の魅力を生かした新たな経済循環の創出を目指す、といった表現の方が意図が伝わりやすく、「なるほど」と受け止めてもらえるのではないかと思います。

#### **【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。

色々ありましたけれども、まずもう少し素敵なデザインにしてくれということなので、これはお願いしておきましょう。

それから、パブコメに対しての回答についての修正意見のようにも聞こえましたが、それをちょっと考えたら良いのではないかとということ、それから専門職に関しての様々なコメントがありました。専門職というのは特にいわゆる技術職の場合は皆さん外の企業体に委託をしたり、臨時にやる場合でも結構劇団の方がやっているようなアルバイト的なものとか、どちらかというと職業的に

も4Kとか3Kというような見られ方をしております、なかなか辛いところがある職種かなと思いますけれど、日本におけるそのあたりの確立というのがまだまだ十分ではないというような気が私はしておりますけれども、今回どういう体制で、特に、新県民会館なりがそういういわゆる技術系のスタッフを雇用なり委託なりをされていくのかということについては、大きな関心があると思いますが、これからの具体的なことでもありますので、ここに書き込むべきところではないかもしれないので、そのような意見としておきたいと思います。

それでは大澤委員お願いいたします。

### 【大澤委員】

私どもは、自分たちで中間支援組織と名乗っております。だんだんと名乗るようになってきたということでもありますけれども、中間支援組織について、イメージだけをお話ししておきたいと思うのですけれども、私は仙台市の職員だったので、言うのも何なんですけれども、仙台市からの職員派遣はありません。それから原資について、仙台市からのお金は基本的にもらっていません。つまり仙台市という行政区域には縛られていないのです。そのことが岩手や福島に行ける根拠になっています。

それから、専門家は多分、宮城野高校にも伊藤み弥が行ったかと思うのですが、演劇と音楽ができる者がおりまして、いわば伊藤は避難所でのコンサートとか仮設でのコンサートを一つの舞台だと思っている、みたいな言い方をすることもあるのですが、そういう形でいくつかのものに縛られないということと、それから音楽資源、最初の頃に避難所に行った仙台フィルの音楽家は持っているだけの楽譜を持っていったという言い方をしています。つまり、何を弾いてくれと言われるか分からない。でも彼らは言われれば、楽譜があれば全部その場で弾いちゃうと。それくらいプロでないと辛いという部分もあるわけなのですけれど、そういった形でみるとプログラムとかそういったことについてかなり専門的な知識も必要になると。あと、仙台という音楽家がたくさんいるところ、これがいわば復興資源だったわけなのですけれども、それを持っ

ていくのに高速道路がかなり充実したというのがすごくポイントでした。午前中に行ってコンサートを集会所でやって戻ってきて、もしかしたら夜にまた仕事ができるかもしれない、みたいな経済的な負担というのをなるべく音楽家にかけないことによって継続していくというようなこととか、そういった中間支援組織というものについての様々な工夫があって、特にやっぱり一番いいのは行政の境目に縛られない仕組みというのが本当はあると良いのですよねということで、私どもはそれで福島にも岩手にも行ったし、色々なことができたのではないかなと思っております。

それからお金ですけども、私たちが3月26日に第1回目のコンサートをした時に、その後いろんなところから寄付の申し出があって、とにかくお金を出したいみたいな感じの人もあるわけです。そうした時には「運営に困っている仙台フィルへのご支援でしょうか？仙台フィルが始めた復興支援コンサートへのご支援でしょうか？」と言ったら、相手の方は「うーん」という時があるのです。「すみません、では半分ずつにしますからね」と私が電話で決めたりしたのですけれども、お金が両方合わせて1億くらい集まった時期があって、それでもって続いていくのですけれども、お金がやはりどこから出てくるのか、というのも、私たちの場合は5年くらいは確か寄付でできたと思いますけれども、お金がどこから出てくるのかというのも1つのポイントになってきます。

そういった形でやっていったわけなのですけれども、これはうまくできるのではないかなと思って、福島の懸田先生という民俗芸能の先生がいらっしゃって、え、民俗芸能の残っているものの調査などをしてらっしゃったのですけれども、その方にお会いした時に「組織を作ったらいかがですか」と、私たちのやり方より「組織を作ったらいかがですか」というお話をして、「作りたい」とおっしゃって、最後に福島県と文化庁も混ざった大会が開かれて、「民俗芸能を継承するふくしまの会」というのができたのでありまして、そこは福島県からも文化庁からも「え、そんなにもらえるのかな」と思うようなことをもらったのですけれども、私どもはそこに文化庁から私のほうがいただいていた人件費、事務費をそちらの組織に入れて、つまり組織ができるまでのお金がどこにもな

いわけですけれど、人もいないのですけれど、そのところは私の権限で手当てをして差し上げたのですけれども、今はすごく頑張っておられます。そういったことで中間支援組織のイメージをそんなふうに持っていただいて、何が問題かということも含めて持っていただければなど。

それからもう 1 つ、専門家という議論の中で、「お金を取ってくる専門家は誰ですか」というのは多分抜けておられるのではないかと思います。どうやったら文化にお金を持ってこられるかというのはそんなに簡単ではないですよ。昔、文化庁に動員されて国会議員の人と話して、今どこかの首長をやっている国会議員の方が来たのですけれども、何十年も前ですが「個人の趣味に税金を使うのはねえ」と言われました。でもコロナの時も同じことが起きて、演劇の人が騒いだ時に「趣味でやっているのでしょうか」という話になった。だからお金をどうやって取ってくるのかという、技術的な専門家とも言えるような人がいないと、なかなか実際にはできない。私どもの方の最初の人気が集まった事業がジュニアオーケストラで、それをするとした時にわーっと 110 人くらいの人数が欲しかったのに 700 人の応募があって大混乱に陥ったのですけれども、そういったわーっと物が動くようなテーマにお金を取ってくるというか、お金を取ってくる専門家というのも実は本当は必要なのですよね。それはなかなか人事異動が多い役所の中では難しいのですけれども、でもそこがないと難しくなってくるなというのが、先ほど村上委員がおっしゃったように、どうするんだという話の時に実は本当に一番大切なのはお金を取ってくるということです。以上です。

**【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。

中間支援組織の一言で言えば経営というか持続性をどういうふう担保するのかということの考えというものが必要だというようなこととしてお聞きしていました。それでももう少し翻訳をすると、この立派な計画が今度できますよね。それを具現化するための段階になると、どうしても役所と対象者だけでは済ま

なくて、そこの間に中間的な何か、組織や活動体なり、そういったものが必要であるというのは前提で、その中間支援の人たちとか組織とかという話が今話題として出ているわけですね。そのやり方としては、1つはアーツカウンシルという組織もあるかもしれないし、大澤委員のところでは元々コンソーシアムがありましたよね。コンソーシアムを作って、これは全国的な組織で作って、各地でそれを受けて今度はその実行部隊と言うのですか、それが動いたと、震災の時にはね。そういう関係の中での今のお話なのですよ。だから今度の場合はむしろホールがあったとして、いろんなビジョンがあって、上にもっと大きなこの計画があって、それをだんだん落とし込んでいって、どういう事業、プロジェクトをやっているかとするときに、どうしても単独で県職員が主体になるというのではちょっとできないところがあるし、それはお金の問題もあるし、人材の問題もあると。こういうことだろうと思います。特にいわゆる事業をやると収入収支は必ず出てきますよね。これは公金だけで賄われるものでは多分ないだろうと思います。そういうことですので、それは当然民間企業からの寄付金とかも集めるし、もちろん入場料の問題があればそれも入れた形で事業というものは成り立つわけなので、そういった時にはそのマネジメントはどうなるのかというところで今の事例は1つの参考になるので、そういうこととして考えてみればその今の話は分かるのではないかなと思いました。

大澤委員もう少しどうぞ。

### 【大澤委員】

コンソーシアムというのは文化庁の小松弥生さんがお作りになったわけですが、教育委員会で元部下だったものですから手伝ったのですが、コンソーシアムの東北センターと名乗れと言われて名乗って、先ほど言ったお金とか人件費とか事務費をもらったのですが、「何をしたらいいか」と言った時に、アリオスの支配人の大石さんが「モデルとなるものを1つか2つやればよいのでは」と言われたのですよ。私は2年しかできないと言っていたものですから、2年間の中でできたことの1つが、先ほど申しました福島にも民俗芸能の中間

支援組織を作るということ、それから石巻の今の複合文化施設について、あれは震災前に前の市民会館が古くなって閉じていたのですけれども、「どうしたら良いんだ」という話を、私と一緒に動いてくれた文科省の方が聞きつけてきて「じゃあ勉強会を開こう」と。その大石さんが言うには「モデルとなる建築ができればみんな見に来てそれを真似するから大丈夫だよ」という言い方をされて、「あ、そうか」と思って素直に聞いて勉強会を開きました。先生がそのアリオスの大石さんと、はっちの女性の館長さん、それから、日本博物館協会の専務理事さんという形で呼んで勉強をお手伝いしたと。それが出発点となってアリオスを見たり、私どもの方の宮城の会館を見たりとか色んなのを見たりしながらやっていくのですけれども、一番その話の中で面白かったのは、先ほど村上委員が言ったのと全く同じことを大石さんが言うのですよ。「使っていない時に人をどう集めるか、これが一番のポイントです」と。アリオスはやっていますと。男女がパソコンで勉強できるようにスペースを作りました、と。でも高校生で男の子と女の子が来るので「どこからかは見えるようにしておきました。危ないといやなので」とか冗談を言っていましたけれども、そういう形で使っていない時にどうするかというのがアリオスのテーマでもあったので、そういうところがポイントになってくるのかなと思います。アリオスは公園に面しているのですけれども、公衆トイレを取っ払ってしまっただけで「自分のところのトイレを使ってほしい」なんて訳の分からないことを言っていたように、人を集めるのに一生懸命でした。アリオスそのものは仙台フィルが毎年新年に演奏会を開いていたのですけれども、リップサービスではなくて、何人かの団員がこのホールを仙台に持って行きたいという言い方をしたくらい、音響的には優れたものでした。以上です。

**【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。

アリオスは言うまでもなく福島県のいわきにある巨大な複合施設です。ここは福島県内で最も事業体として優れた活動をしているとして評価の高いところ

です。玉淵委員のえずこホールと同様にといいか、それよりも大きな規模でやっているところをご認識いただけると分かりやすいと思います。1つは今議論になっているところで、もう1つ今出てきたのが、いわゆる劇場系といいいかパフォーマンスアート系とギャラリー系、この2つの違いがあるといいいことですよ。ギャラリー系は結構何人かずっと人の出入りが日常的にあるのですけれど、パフォーマンスアート系はやはりドツと入ってドツといなくなるといいいか、そういう特性を持っていますので、いいいゆるお客対応も違いいし、稼働率といいいか、なかなか数値では難しいものがあるといいいことで、それを今回のホールは機能としては両方持っていますので、そこら辺を両方考えなきいいけないところですよ。

それでは梶賀委員お願いします。

#### 【梶賀委員】

送っていただいた資料を3日ぐらいいかけて何回も何回も読ませてもらいました。本当に素晴らしいものができるなといいいふうに思いいいます。やっぱり「はじめに」が効いていますね。これで読んできみようといいい気持ちになると思いいいます。といいいいますか、これを読んできみる人がどれだけいるのでしょうか。私はこんなに素晴らしい新しい劇場ができるなんて、多分日本一といいいか世界一じゃないかなといいいふうに思いいうのです。村上委員がおっしゃいましたように、ホールが何もやっていない時こそ活発にしていいいくといいいところに力を入れていいいただきたいなと思いいいます。新しい県民会館ができるといいいった時に、宮城県の隅々までがワクワクするのでしょうか。本当にまだ全然知らないと思いいいます、みんな。だから、県民や劇場をを使うであろう未来の子どもたちに対して、ワクワクして、劇場といいいうよりも、いいいばい劇場以外での活動にワクワクするようないいい人材とか子どもたちといいいか、そういう人たちを増やしていいいくといいいう、これからその活動なのではないかなと思いいいます。みんながすごく期待して、お絵かきする人も、それからお芝居したい人も、歌いたい人も、踊りたい人も、色んな人がこの新県民会館に対して、自分が参加者だといいい意識を持たせるような運

動、活動を同時にもうしていくべきじゃないかなと思います。

今回、育成という部分に大変力を入れて具体的なものもかなり書かれています。そこは今までもお話しがありましたけれども、現場職員の扱いというのは、これは私も学校とか自治体とのお仕事をしていて、一生懸命やってきても人事異動で変わってしまうのですよね。今まで一生懸命その人をその気にさせて一緒にやってきたのに、今度来た人は全く無知というか興味がないというか、愛情がないというか、そういう人だったりするわけですよ。その人をいかにその気にさせて愛情を持たせて一緒にやっていくかということ。結構子どもを育てるよりも、職員を育てる方がエネルギーが必要だったりします。学校はもう教頭と校長が変わったらガラッと変わっちゃいますよね。だからそれで子どもたちが影響していることを私は現場でずっと見てきましたから、まずは税金で給料をもらっている人たちをいかに柔軟な脳みそにするかということにかなりエネルギーを使いました、ずっと長年。でも、結果その人たちはとても愛情を持ってくださって、そのままずっと応援してくださるという形になった人と、「全くしょうがないな」というふうになっていった人は、「あれはあのままだね」と思うしかないのです。だからそういう現場も専門職も線引きはいらないと思うというか、何でもいいから、とにかく興味を持って、一つのこと、目的に向かってみんなで力を合わせてやるという達成感を1回味わわせる。そのことによって、どんな小さな子どもものすごく育つから。とにかく私たちに与えられたすごい劇場を、自分たちで生き生き楽しくやっていこうよ、というような指導というか教育というか、その気にさせるというか、そういう準備をしていたら良いかなと思います。

とにかくこれを具体的にしていくということ。それで村上委員がおっしゃったようにホールはどうだって良いのですよ。ホールはお金儲けするために貸せばいいのですからね。それでしっかり貰えば良いのです。お金がある人のそのお金を借りればいい。でもその他の部分をいかに活性化させるかということに準備からそこにエネルギーを持って、岩手県との県境にいる宮城県の子も、反対に福島にぐっと近いところにいる子も、県民であるということのその特権を

生かしていかに関心を生かすかというような、そういう空気を今から準備していった方がいいと思うのです。そういうことがこの素晴らしい新県民会館をオープンするにあたって、オープンしてからでは遅い。だから今からみんながそういう日をワクワクして待つような形になって行けたらいいかな、行かせたいなど、強く思っております。以上です。

**【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。

毎月のように人材育成を含めた創作活動をなさっている梶賀委員ならではの意見でしたので、どうやってホールを活性化させるかということに繋がるわけなので、大ホールだけを見ているとそれが見えないわけですが、それ以外の場所、スタジオホールなどの機能だったりギャラリーだったり、そういったところで何をどのように日常的に展開するのか、あるいは、創作活動、お稽古を含めたものが展開されることによって、そういったものが見えてくる、そういったことのイメージアップをして欲しいという意見だったと思います。

では、WEBで出席の高田委員からお願いします。

**【高田委員】**

中間案で出た内容が十分に反映された最終案で、細かな文言の整理ですとか、さらに分かりやすい内容になっていると感じています。どうもありがとうございました。何より文化芸術振興には中間支援人材の育成が本当に重要でして、重要施策としてもしっかり明示されたことで、ビジョンを体現するためのアクションプランに繋がるのではないかと感じています。

もうビジョンに対しては特に異議はないので、今後のことへの提案になるのかもしれないのですが、中間支援人材の育成には、研修会のような座学だけではなく、実際に現場を作っていく、専門的な経験を養えるような継続的な機会が求められると考えております。芸術祭を運営できるような人材が県内にはまだまだ少ないと感じておまして、アートプロジェクトなどの運営を通

して専門的な経験を積めるような育成機会というものが今後は求められるのではないかと感じております。アーティストや地域をつなぐ人材ですとか、現場を作る人材、経験値の高い人材を輩出することも重要ですし、あとは県内の芸術団体とコミュニケーションを深めて協働する仕組みなど、今後はビジョン実現のために、さらに検討していただけると良いのかなと感じております。

最後に、新県民会館においてはホール、パフォーミングアーツが軸になっていると思うのですが、舞台芸術系のディレクターのみならず美術系のディレクターも配置していただけると、より細やかな文化芸術活動が生まれて施設全体が活発になっていくのではないかなと期待しております。私からは以上です。ありがとうございました。

**【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。美術系のアートディレクターも欲しいというお話をいただきました。

では渡邊委員をお願いします。

**【渡邊委員】**

あまり中間案に関われていなかったのであまり申し上げることもないのですが、全体的な印象として、メディア報道とか施策全体を見ていると、宮城県の芸術文化の施策のイメージがややハード寄りに感じるのですよね。今回新県民会館もできますし、先日議会で知事の方からもローコストアリーナを建設したいというような言及があったかと思うのですが、ホールがたくさんできるのだなという印象がやはり県民のイメージとしてはあるのではないかなと感じます。そうした中で今回の計画ですね、これだけ皆さんが担い手について細やかに考えられて、プレイヤーだけではなく中間支援組織を育てていくという強い意図が感じられる、しっかりソフトに寄った施策になっていると思うので、やはりこれをどう知っていただくかということを是非考えていただきたいなと思いますし、特に、仙台市以外の人口減少が進んでいるような地域の

方々に知ってもらふ機会を作っていただけたらと思います。

あとは内容について修正意見ではないのですけれども、例えば第2章の「文化芸術を取り巻く現状と課題」のところで、芸術銀河に関するアンケートがされていて、回答数も減っている中で分析としては肯定的意見の量を評価されていて、概ねみんな評価しているというような評価がされているのですけれども、是非次回は評価しないような方々のご意見についても深く掘り下げていただいて、改善に繋げるような分析が今後されていくと良いのではないかなと感じたということと、30ページ以降のこの計画に基づいた取り組み事例のところですけれども、結構分野を跨いだりとか課を跨いだ事業に言及されていて素晴らしいなと思っているのですけれども、実施事業に関して、やはり継続的にやられているようなものが多く感じるので、今後は新規参入の余地だったりとか効果の実証なども積み重ねていって、計画を作るたびに更新されていってるなという印象があると県民の皆さんも興味を持っていただけるのではないかなと感じました。

もう終盤だと思いますので特に修正等は必要ないと思うのですけれども、この計画を踏まえてさらに芸術文化の活動がバージョンアップしていくということについて、期待を込めて発言させていただきました。以上になります。

**【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。

一巡しまして、吉田委員にはもう少し後でまとめという感じでお願いしたいと思うので、今まで出たところで県側の考えも少し伺ってから最後のまとめをしたいと思いますので、今まで出た質問の部分で県からお話をいただければと思います。

**【事務局：遠藤課長】**

皆さんご意見ありがとうございました。多岐にわたる内容で少し的外れな回答となってしまうかもしれませんがご了承いただければと思います。

まず計画を具体化するための方策、計画が出来上がった後のことが大事だというのは、もちろん我々もその通りだということで認識しております。こちらのビジョンにつきましても、もちろん新県民会館のことだけではなく文化芸術全体のビジョンという形になっておりますので、主な取り組み事例で今ご意見にありましたとおり、各部局に跨って取り組んでいくということ、消費生活・文化課だけで取り組める内容ではもちろんございませんので、各部局連携の上で、教育庁も含めて取り組んでいった上で5年後の目指すべき姿を目標に取り組んでいきたいという形になります。

その中で特に皆さんからご意見をいただいております新県民会館に関しましては、具体的な取り組み内容はこれから詳細を詰めていくという段階ではございますけれども、開館当初の運営に関しては、非公募で文化振興財団が担うというところで既に管理運営計画の方で計画しています。その中で、これまで管理運営計画の中でも謳っておりますとおり、今の県民会館が貸館が中心だということもございまして、自主事業にももちろん力を入れていくと。その中で、ホール以外のところの活用が重要だというご意見もございましたけれども、大ホール、スタジオ、スタジオシアターという大中小ホールを備える形になりますけれども、その他にも練習室、創作室、和室等々もございまして。施設の機能を最大限に生かして、施設の利用をしていただきながら、様々な楽しい活動や楽しめるような取り組み、皆さんに響くような取り組みももちろん進めていきたいですし、ホールとしてだけではなく、例えば組織の中でアソシエイトディレクターということで若手の芸術家を非常勤職員として採用する予定もございまして、アソシエイトディレクターも含めてワークショップなどの開催も通じて会館の利用、ホールの利用という形ももちろんございまして、屋外の芝生広場の方の利用なども通じてこちらに集っていただき、それも限定的な人ということではなく、多様な方々に集っていただけるような、そういった取り組みについてもプログラムの中で実施していきたいということで今のところ考えています。

そういった取り組みが進められる上でも、今度は文化振興財団だけでできる

ということはありません。複合施設という形になりますので、現在も芸術銀河の中で文化芸術の取り組みを進めていらっしゃるNPOの方々などとも連携をしながら様々な取り組みを実施してございますけれども、複合施設となりNPOとの関係性も近くなるということもございますので、NPOを含めた様々な団体等と一緒に連携をしながら取り組んでいきたいというところで、計画としてももちろんございますし、我々としての方針としてももちろん今後そういった中で考えていきたい、進めていきたいと思っております。

それからアーツカウンシルについてですけども、アーツカウンシルは、今後目指すところにはアーツカウンシルというのはあるかと思っております。ただ、現状で新県民会館の開館を控える中で、我々としても地域文化サポート事業ということで新たにコーディネーターの方をお願いしております、そういった取り組みから一つずつ段階を経て、文化振興財団の中でもアーツカウンシル的な、例えば相談を受けたり連携したりといった形で、コーディネーターとも様々な連携をしていきながら、市町村の公共ホールや各種団体の取り組みも含めて、結果的にアーツカウンシルのような方向性に進めていければ、将来的にはアーツカウンシルの設置という形にも繋がっていくかなというところで、今後は考えていきたい、まずは段階を踏んでいきたいと思っております。新県民会館の運営に関しても、まず導入期があり、普及期があり、発展期がありということで10年を一区切りで成長していくというイメージで計画してございまして、開館1年目から全てをうまく進められるかということ、なかなかそうはいかない部分もあるかと思っておりますので、10年の間で発展していけるような取り組みを進めていきたいと思っております。

それからアートコレクションですけども、こちらについては今後の検討ということにさせていただければと思います。新県民会館の中で例えばどのように展示ができるのか、例えば屋外を活用したらどうかというご意見などももちろんあるかと思っておりますけども、屋外の中でもイベントでの使い方、駐車場での使い方なども想定されておりますので、そのあたりのバランスもあるかと思っておりますので、そういった中でどのようにアートコレクションができていくのかと

というのは今後の検討ということにさせていただきたいと思います。

それから人材関係ですけれども、当然組織も拡大します。面積も拡大していきます、機能も拡大していきますという中で、文化振興財団の組織的にも県としてはもちろん強化していきたいと考えておりまして、管理運営計画の中では、組織体制としてはアソシエイトディレクターを含めて49人ということで計画してございます。その中で企画部門の強化、それから、広報・営業部門の強化、それから舞台技術も現状の県民会館は東北共立さんとJVを組んで運営しておりますが、やはり館の運営の中で舞台技術を担う専属の職員はどうしても必要ということは我々としても認識しておりますので、舞台技術の職員も全面的に委託・外注という形ではなく、専属の職員を配置したいというところでこれから組織の強化を図っていきたいと考えております。また、専門職等々の研修、それから、学生、高校生など、今回の計画の中でも次代の文化芸術を担う子どもや青少年の育成という施策も1つ入れておりますし、文化芸術を支える人材の育成を重点にしているというのもございますので、前回の審議会の中でも、人材の育成は非常に時間がかかるということで梶賀委員からご意見をいただいていたかと思うのですが、開館までの間にまずは公立文化施設、県内の市町村のホールの皆さんとの連携も深めながら、さらに今県民会館でも舞台技術研修ということで芸術銀河の取り組みの中で実施している側面もございます。そういったところのターゲットをさらにもっと広げていき、舞台技術、公共ホールの職員の皆さんということだけではなく、現に活動している方々、それから、学生や高校生なども含めて、学生や高校生では例えばインターンシップなり、舞台裏を見ていただくというだけでも非常に勉強になるかと思っておりますので、そういったところでターゲットを広げ、それぞれのターゲットに応じた形で人材育成の取り組みについても進めていきたいと考えています。人材育成についてはやはり県立の文化施設ということでございますので、そこは県立としての役割ということで認識しておりますので、しっかりと取り組んでいきたいなと思っております。

### 【議長：志賀野会長】

多岐にわたるところでお答えいただきまして誠にありがとうございました。

今お伺いしたポイントとしましては、この計画は県全体が取り組むべき、行政体としてやっていくということなのでかなり総合性を持ってやらなきゃいけないと。県民会館だけの話ではないというところをされつつ、県民会館も49名体制を取られると、そういう大きな組織にこれからなっていくということ。それから人材育成ということについても、アソシエイトディレクターを始め、そういった人たちを育成していく初動の手立てを既に取りられているようですので、今後展開しますと。

それから、アーツカウンシルという言葉については、むしろ実態を先に作っていくというようにお聞きしましたので、それがやがてどういう言い方をしていくのかは別にして、先にそのような中身を充実させていくというようなことかなと思いました。そういったお答えということですので、ここで最終的には計画がまとまったというところで吉田委員にお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

### 【吉田委員】

最後ということで、重複する部分がたくさん出てくるとは思いますけれども、まず冒頭で志賀野会長が申しあげましたように、「はじめに」の位置付けですね。これは大変、大きなものになったなと思っております。この最終案に締まりが出てきたような印象を受けました。このビジョンに一本の筋が通ったという受け止め方になったなと思っております。なぜこれを策定したのかという姿勢が現れたのかなと。そして社会の変化、社会が変わるたびに改定、改定と繰り返してきていますね。その改定する必要性もやはりこの文化芸術というものが我々が生きるためにはかけがえのないものであるということ強く印象をつけたのかなと受け止めました。このビジョン構成に起承転結の起というものが確かに位置づけられた印象も受けた次第です。

今度は、いよいよ皆さんから出ていますように、具現化ということが大切な

要件になるかなと思っていますが、やはりこれまで労力、そして時間をかけてきたこのビジョン、やはり皆さんも思うように画餅、いわゆる絵に描いた餅にしたいくないと、皆さんと共有したいという強い思いがございました。特にこの重点政策のところ、第4章になりますけども、そこに方針が3つ書いてあります。これも事務局から説明があったように、文末表現が変わりましたね。これからやるのだという強い意志を感じとれました。もうまさにアクティブな感じを読む人に受けさせることができるのではないかなと思っています。従いまして、これも皆さんから出ているわけですけども、いかにこの重点施策を中心にして具現化に結びつけるかということは、まず共有したい。そのためにはまず足元、県庁内での共有、部を超え、課を超えて「あ、こういう方向にこれから向かおうとするんだ」ということを皆さんが持ち合う、そのための具体の場面というのは設けられないのかな、ということですよ。それでもって、串と筋が貫かれる。

もう1つ、ネット、網を張りたいなど。これは前回も申し上げたのですけれども、せっかくパブリックコメントをやるわけですから、一般県民の方々を含めて各市町村の担当者にもパブコメ的なことをやって欲しかったなと思ったのですね。と言いますのは、パブコメに関わることによって市町村の参画意識が出てくるのですね。「私たちが作ったのだ、このビジョンを」ということによってこれからの事業にも気持ちの入り方が違ってくるのかなと思うのですね。と言いますのは、なぜ市町村かと言うと、委員の皆さんがおっしゃったように、新しい事業をやることももちろん大切だと思います。もう1つ、既存のあり方をもう一度振り返ってみることも大事なのかなと思います。ページで言いますと17ページになりますかね、第3期の取り組み状況が書いてありますけれども、まず方針1の始めにも、文化芸術の力による心の復興事業で、地域、学校、市町村と出てきますよね。こういう見方をしますと、あらゆる事業に市町村が関わっているのですよね。ですから市町村もこのビジョンの内容、そしてなぜ変えたのか、どこが変わったのか、そして重点施策は何なのかということをご共有していただきたい。そうすれば各事業のあり方も変わってくるのかなと思う

次第です。既存のものと、そして新しくやることをどのように充実させていくかということ意識していただければなという願いです。

最後に、細かいことで表記のことですけれども、概要版の第5章の一番下で、「・」の使い方ですが、「求められる・期待される」という動詞系が2つ並んでいますけれども、「・」の使い方はだいたい名詞、単語と単語なのですよ。ですのでちょっと違和感があります。直した方が良いと思うのです。ここを動詞系にするならば、「求められる、期待される役割」でもいいのかと思っています。

繰り返しますが、せっかく作ったものですから、具体の形で県民1人1人に伝われば良いなという強い願いがあります。以上です。

#### **【議長：志賀野会長】**

ありがとうございました。ここまでで一巡しましたが、何か追加のご意見はありますか。

では、無いようですので議長の役目をお返ししたいと思います。このビジョンは旧計画から第4期計画にしたというところの意義が大きいわけでごままして、まさに新県民会館の開館や美術館の改修があり、そのあたりが目玉になっていることは間違いのないわけで、これが十分に県民・市民に伝わっているか、市町村に伝わっているかという、今吉田委員がおっしゃったようになっていないかもしれないですね。そういう意味ではせっかくですから答申の儀式は、今回やった方がいいのではないかなと思うのです。世の中が色々、米とか災害対策とかそっちの方に話題がどんどん行っていますけれども、物価対策だけじゃなく、この文化芸術も村井県政でやっているということ内外に見せるチャンスだと思うので、これはおやりになった方がいいのではないかなというのが最後の私の意見でございます。

#### **【事務局】**

志賀野会長、議事進行ありがとうございました。

委員の皆様も貴重なご意見ありがとうございました。  
(以降、策定までの今後のスケジュールについて説明)